

# 絵本『青いかいじゅうと赤いかいじゅう』

## とネットモラル学習

### <あらすじ>

青い怪獣と赤い怪獣が山を隔てていました。双方会ったことはありません。山に空いた穴（小さなトンネル）を使って会話をしています。お互い山を挟んでいるため太陽の沈む状況が違って見える為「日が暮れる」と「夜が来る」こんなイメージの違いがあります。お互い姿が見えないまま会話をしているので誤解が生じたりして喧嘩が始まります。山越に岩を投げ合う喧嘩に発展しました。怪獣の投げた岩が山に当たり山が段々と崩れ出しました。そして、二人は気づいたのです。岩を投げて山を崩せば会うことが出来る。二人は協力して山を崩しはじめました。やがて山は崩れ二人はお互い顔を見合わせながら話をすることが出来、誤解がとけ友情が深まりました。

### <伝えたいこと>

自分の考えだけを一方的に伝えると相手の反感をかうこともある。相手の状況を知ろうとすることが大切。お互い顔を見て話せば誤解も解けるし、更に解り合える。

### <絵本とネットモラル>

トンネルを通じて顔の見えない会話から誤解が生じ喧嘩が始まった。この状況はそのままインターネットに置き換えることができます。また、お互い山を挟んで環境が違う為に相手の思いを想像する事もできずに「馬鹿じゃないの？」と発言してしまった場面は自分の置かれている環境だけから自分の意見が正しいと判断しての意見です。このようなトラブルはWEB上(チャット、ブログ、掲示板、メール)でも頻繁に起きていることです。この絵本を通じインターネットで起きうるトラブルを子供に客観的に捉えさせ未然に防げる策を考えさせたいと思います。

